

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002001	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	木村 直樹 / Naoki KIMURA		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	木村 直樹 / Naoki KIMURA		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	木村 直樹 / Naoki KIMURA		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス / E-mail address			
担当教員研究室 / Laboratory			
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours			
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標 / Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法) / Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容 / Class outline / Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード / Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件) / Requirements			
アクセシビリティ / Accessibility			
備考(URL) / Remarks(URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習-の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）  授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）  自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）  授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る  自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕  【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）  授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る  自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）  授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る  自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）  授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る  自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）  授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る  自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）  授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする  自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査  授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）  自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）  授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る  自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）  授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う  自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会  授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する  自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）  授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する  自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ  レポート作成【CF助言】  TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002002	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	佐久間 正 / Tadashi Sakuma		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	佐久間 正 / Tadashi Sakuma		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	佐久間 正 / Tadashi Sakuma		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習- の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）</p> <p>授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）</p> <p>自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）</p> <p>授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る</p> <p>自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕 【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）</p> <p>授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る</p> <p>自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）</p> <p>授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る</p> <p>自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）</p> <p>授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る</p> <p>自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）</p> <p>授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る</p> <p>自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）</p> <p>授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする</p> <p>自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査</p> <p>授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）</p> <p>自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）</p> <p>授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う</p> <p>自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する</p> <p>自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ</p> <p>レポート作成【CF助言】</p> <p>TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002003	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	首藤 明和 / Toshikazu Shuto		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	首藤 明和 / Toshikazu Shuto		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	首藤 明和 / Toshikazu Shuto		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習-の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）</p> <p>授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）</p> <p>自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）</p> <p>授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る</p> <p>自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕 【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）</p> <p>授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る</p> <p>自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）</p> <p>授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る</p> <p>自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）</p> <p>授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る</p> <p>自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）</p> <p>授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る</p> <p>自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）</p> <p>授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする</p> <p>自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査</p> <p>授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）</p> <p>自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）</p> <p>授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う</p> <p>自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する</p> <p>自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ</p> <p>レポート作成【CF助言】</p> <p>TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002004	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	池田 幸恵 / ikeda Yukie		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	池田 幸恵 / ikeda Yukie		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	池田 幸恵 / ikeda Yukie		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student	多文化社会学部1年次		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yu-ikeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部2号館(総合教育研究棟)12階		
担当教員TEL/Tel	819-2931		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 10:30 - 12:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布。</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)  授業： 担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する  自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる  授業： 質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る  自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)  授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する  自習： 2自習- の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）  授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）  自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）  授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る  自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕  【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）  授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る  自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）  授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る  自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）  授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る  自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）  授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る  自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）  授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする  自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査  授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）  自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）  授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る  自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）  授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う  自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会  授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する  自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）  授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する  自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ  レポート作成【CF助言】  TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002005	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習-の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）  授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）  自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）  授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る  自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕  【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）  授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る  自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）  授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る  自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）  授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る  自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）  授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る  自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）  授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする  自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査  授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）  自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）  授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る  自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）  授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う  自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会  授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する  自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）  授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する  自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ  レポート作成【CF助言】  TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002006	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	鈴木 英明 / Hideaki Suzuki		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	鈴木 英明 / Hideaki Suzuki		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	鈴木 英明 / Hideaki Suzuki		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)  授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する  自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる  授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る  自習： 卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)  授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する  自習： 2自習- の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）</p> <p>授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）</p> <p>自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）</p> <p>授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る</p> <p>自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕 【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）</p> <p>授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る</p> <p>自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）</p> <p>授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る</p> <p>自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）</p> <p>授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る</p> <p>自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）</p> <p>授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る</p> <p>自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）</p> <p>授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする</p> <p>自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査</p> <p>授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）</p> <p>自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）</p> <p>授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う</p> <p>自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する</p> <p>自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ</p> <p>レポート作成【CF助言】</p> <p>TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002007	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	野上 建紀 / Takenori Nogami		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習-の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）  授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）  自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）  授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る  自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕  【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）  授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る  自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）  授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る  自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）  授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る  自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）  授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る  自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）  授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする  自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査  授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）  自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）  授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る  自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）  授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う  自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会  授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する  自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）  授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する  自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ  レポート作成【CF助言】  TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002008	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hazama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部 1号館		
担当教員TEL/Tel	095-819-2922		
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールにて連絡してください		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身に付けることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習-の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）</p> <p>授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）</p> <p>自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）</p> <p>授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る</p> <p>自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕 【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）</p> <p>授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る</p> <p>自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）</p> <p>授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る</p> <p>自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）</p> <p>授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る</p> <p>自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）</p> <p>授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る</p> <p>自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）</p> <p>授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする</p> <p>自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査</p> <p>授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）</p> <p>自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）</p> <p>授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う</p> <p>自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する</p> <p>自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ</p> <p>レポート作成【CF助言】</p> <p>TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002009	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	正本 忍 / Masamoto Shinobu		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	正本 忍 / Masamoto Shinobu		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	正本 忍 / Masamoto Shinobu		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習-の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）  授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）  自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）  授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る  自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕  【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）  授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る  自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）  授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る  自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）  授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る  自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）  授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る  自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）  授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする  自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査  授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）  自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）  授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る  自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）  授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う  自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会  授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する  自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）  授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する  自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ  レポート作成【CF助言】  TP成果最終報告会</p>

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/26		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20160581002010	科目番号 / Subject code	05810020
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教養ゼミナール(多文化) / First-year Seminar		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	南 誠 / Minami Makoto		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	南 誠 / Minami Makoto		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	南 誠 / Minami Makoto		
科目分類 / Class type	教養ゼミナール科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours			
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>新入生を大学での学びの世界へとといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。</p>		
授業方法(学習指導法)/Method	<p>各回のテーマをめぐって、教員による導入的解説、グループワークを軸とした具体的な課題への取り組み、簡単な文献調査・フィールドワーク、成果のプレゼンテーションとディスカッション、最終レポートの作成を通して、学生参加型の演習授業を実施する。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<p>多文化社会学部で何を学び、何を身につけることができるかの全体像をつかむところから始まり、学生としてのマナー、知的生産のための基本的考え方、そのためのスキルを学び、それらを用いて簡単な調査とその成果のプレゼンテーション、およびレポートの執筆へと展開していく。</p>		
キーワード/Key word	<p>大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート</p>		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>漢字文献情報処理研究会(編)『大学で学ぼう—知のスキルアップ15』好文出版(2013)。他の資料や文献等は主としてLACSを使って配布</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	<p>各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)</p>		
受講要件(履修条件)/Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility			
備考(URL)/Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	<p>・「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。</p>		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	<p>はじめに：オリエンテーション(第1課)            授業：担当教員と受講生の自己紹介、大学での学びの全体イメージを把握する            自習：学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる</p>		
第2回	<p>問いを立てる            授業：質問への回答、大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る            自習：卒業までの学びの設計図を描く 時間外：個人面談、いろいろなことに疑問を持ちそれをメモする</p>		
第3回	<p>資料収集の基礎(第5課)            授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する            自習：2自習-の続き</p>		

第4回	<p>知のモラルとマナー（第3課）</p> <p>授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー）</p> <p>自習： 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員・CFに送信する</p>
第5回	<p>問題発見からリサーチクエスチョンへ（第9課）</p> <p>授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る</p> <p>自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備〔2h〕 【CF助言】</p>
第6回	<p>本・論文を探す（第6・7課）</p> <p>授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る</p> <p>自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る</p>
第7回	<p>文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(1)（第13課）</p> <p>授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、レポート論文執筆の基本的考えを知る</p> <p>自習： 実際に文献表を作ってみる</p>
第8回	<p>リーディングと研究ノート作り（第8課）</p> <p>授業： 文献表についてのディスカッション、リーディングと研究ノート作りの基本を知る</p> <p>自習： 文献表のブラッシュアップ、主要文献の収集と図書館の活用実践、文献の読解【CF助言】</p>
第9回	<p>調査から研究へ（第10課）</p> <p>授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る</p> <p>自習： 文献の読解（続き）、リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる【CF助言】</p>
第10回	<p>グループ調査の設計（第2課）</p> <p>授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、グループ調査のテーマを決め、班分けする</p> <p>自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する【CF助言】</p>
第11回	<p>文献調査とフィールド調査</p> <p>授業： 調査計画についてのディスカッション、調査をする際の注意事項確認（「FW入門」との接続）</p> <p>自習： 文献調査を行い、手分けして読む、予備的な調査を行う【CF助言】</p>
第12回	<p>プレゼンテーション入門(1)（第11課）</p> <p>授業： 予備調査の手応えを報告する、プレゼンテーションの基本を知る</p> <p>自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有 本調査を行う【CF助言】</p>
第13回	<p>プレゼンテーション入門(2)（第12課）</p> <p>授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする、共同研究発表の方針を話し合う</p> <p>自習： 調査データのブラッシュアップをする、共同研究発表のプレゼン準備をする。【CF助言】</p>
第14回	<p>研究発表会</p> <p>授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、ディスカッションに参加する</p> <p>自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する</p>
第15回	<p>レポート・論文執筆の基礎(2)（第14課）</p> <p>授業： プレゼンテーションについてのまとめ 連名でレポート・論文の書くためのポイントを確認する</p> <p>自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする【CF助言】</p>
第16回	<p>まとめ</p> <p>レポート作成【CF助言】</p> <p>TP成果最終報告会</p>